



Newsletter No.144 2017.8.26

ronniandpopoki(at)gmail.com

<http://popoki.cruisejapan.com>



8月！夏は海に行くのが最高！でも、ポーポキはどちらかといえば、お昼寝してサーフィンの夢を見る方が好き。あなたはいかが？

Popoki's Hot News!



UPCOMING!

10月28日

「ポーポキと平和と健康を考えるワークショップ@兵庫医療大学」

今年もポーポキと一緒に健康と平和を考えませんか？

詳細は次号に掲載します。

お待ちしております！

「一言の平和」コーナー



ポーポキのお友だちのまこにゃんは、次の「一言の平和」を送ってくれました。

「平和ってなんだと思いますか？と洋子さんに聞くと、

「みんながつながっていくこと。笑顔でいること」

とおっしゃっていました。

震災を経験され、大槌町でつながり、笑える場所をつくっている洋子さんの大事なものを少し、知れたような気がします。」

あなたは今日、どんな「平和」に出会いましたか？ぜひお聞かせください。

ポーポキのメール [ronniandpopoki \(at\) gmail.com](mailto:ronniandpopoki(at)gmail.com) !

灘チャレンジ レポート！パート2

ふみにゃん

7月2日に今年も灘チャレンジが開催されました。今年のポーポキピースプロジェクトはポストカードなどの物販の他、塗り絵やお絵かき、シャボン玉をしてみなさんと交流してきました。よく晴れていて、とても暑い日だったのでみんなくたくたでしたが、お水をたくさん飲んで頑張りました。

お絵かきは、子どもたちと一緒に青や、緑、赤などのチョークで道路にお絵かきをしました。ほかの人の絵を消さないように、けれども、自分の表現はしっかりできるように絵が描かれていくのは「平和」のヒントかもしれません。子どもたちは、お絵かきの後のチョークをブラシでこすって落とすお掃除まで張り切って手伝ってくれました。どうもありがとう！

シャボン玉は、さとにゃんがつくってきてくれたモールやストローの輪っかにシャボン液を浸して風に晒すとたくさんのシャボン玉が出来ました。通りすぎる人を笑顔にしたシャボン玉には、やっぱり平和が詰まっているかもしれません。



風が強くて、よく飛ばされて大変だった塗り絵では、ポーポキとおさかなさんに色を付けました。みんながいろいろな素敵な色になりました。自分の好きな色になれるということも、平和の一つかもしれませんね。



8月6日のダイイン&スカイプ

ろにゃん

2011年3月の福島第一原発事故をきっかけに、世界中の多くの人々が核兵器と原発の関係について考えたりしていたときに震災後の初めての8月6日を迎えました。アメリカのピッツバーグ市で活動家はヒロシマ・ナガサキを考えるイベントを企画していて、その現場に神戸からスカイプ参加しようという提案がありました。以来、ポーポキ・ピース・プロジェクトの有志は8月6日に8時前に集まり、シャドー、ダイイン、そしてスカイプをするようになりました。シャドー：突然に原爆が私たちの上に投下されたら、私たちは影しか残らないという想定の下で、お互いが地面に座ったり寝たりしている姿をチョークでなぞる。そして、8:15日に黙とうの一環としてダイイン（みんなで死ぬことを表すことによる核兵器に対する抗議）する。



ダイインのあとはスカイプしました。

今年のカイプは、9:00 ころから始まりました。ピッツバーグ市の Remembering Hiroshima Imagining Peace のみなさんと、グアム (グアム) のティアラ・ナプティさんとポーポキ・ピース・プロジェクトから7名 (たいにゃん、タイパパにゃん、ふみにゃん、まりにゃん、もりにゃん、よしにゃん、ろにゃん)。

先方は原爆による放射能被害についての映画を観たあとだったので、最初の質問は福島第一原発事故のその後の状態についてでした。これに対して、ふみにゃんは自分が茨城県出身で、仲間に甲状腺がんになっている友だちがいるのに、情報は明らかにされない。メディアや政府は知られたくないので、国民は知りたくないのか、それとも知ろうとしないのか。まりにゃんは、関西に住んでいるが、話にでないし、ニュースにもでない。だから知らない人が多い。ふみにゃんは、「落ち着くまで30年と言われているけれど、それはそこにしか住めない人が死ぬまでの時間だと考える。」その後も、原発から避難している人々の現状などについて、しばらく会話が続いた。除染土などの廃棄物の問題や海の汚染の問題にも及んだ。海でつながっている日本とグアムとアメリカ。海を汚すのは、原発事故だけではなく、軍事演習や核実験も戦争も、という指摘もありました。

核不拡散条約についても質問がありました。それぞれの場所で、反核の声があるけれど、アメリカの核戦略によって守られているという意識が高そう。グアムは、北朝鮮や中国から近いということもあって、目標としての危険も抱えているにもかかわらず、アメリカの軍事戦略についてものが言えない政治的地位に問題があると指摘された。さらに、アメリカはグアムや北マリアナ諸島で射撃訓練場建設を計画しており、これは環境をはじめ、多大な影響を及ぼす恐れがある。現在、この差し止めを目指す訴訟が展開されているが、東アジアの状況の中では止めるのがますます難しいでしょう。

ろにゃんは、トランプ大統領と北朝鮮の問題について聞いた。北朝鮮のことは、日本やグアムほどニュースになっていないけれど、14万発の核兵器を持っているアメリカを攻撃するわけにはいかないという論評もあると言われた。もりにゃんからは、北朝鮮のような脅威に対して、軍事的な対応以外の話はないのかと聞いたが、説得的な方法は今のところ見えてこないというのが答えだった。また、核兵器の使用に関する大統領の決断手続きを一段と複雑にする動きが何年か前からありますが、今回も議会で否決された、という報告がありました。

最後に、たいにゃんは「平和とはなんだと思う」と聞きました。答えは、「みんなが尊重され、大切にされ、そして愛されることだと思う。」たいにゃんのおかげで会話が良いところで終わりました。

今年もありがとうございました。



先月のポーポキ通信に6月の話と7月の単語を紹介しました。今回は、7月の話と8月の単語を紹介します。

7月の単語は、高台、避難所、救護所、救援物資。そして、7月のおはなしは、次のとおりです。ポーポキは、山(やま)の上(うえ)の非難所(ひなんしょ)に向かって走(はし)りました。コアラばあちゃんは、速足(はやあし)で歩(ある)きました。

コアラばあちゃん:「つかれた!大雨(おおあめ)ぐらいで、どうして高台(たかだい)!?!のぼるのはたいへん!

ポーポキ:「川(かわ)があふれたらあぶないでしょう」

コアラばあちゃん:「でも、雨(あめ)によって、山(やま)がくずれたらどうしよう?」

ポーポキ:「この非難所(ひなんしょ)は大丈夫(だいじょうぶ)!そして、救護所(きゆうごしょ)もあるしね。」

コアラばあちゃん:「だといいいけれど・・・。」

ポーポキ:「それより、救援物資(きゆうえんぶつし)に美味しいものがあるといいね」

コアラばあちゃん:「ポーポキ、遠足(えんそく)じゃないからね・・・。」



◆ スペイン語版: Mathias, VERSIÓN EN ESPAÑOL:

Así que aquí hay una historia usando las palabras que hemos introducido durante este mes (lugar alto, refugio, puesto de primeros auxilios, artículos de socorro).

Historia:

Popoki corría en dirección al refugio de la cima de la colina. La abuela Koala caminaba también rápidamente.

Abuela Koala: "Estoy cansada! ¿Por qué tenemos que ir a un lugar alto solo porque hay lluvias fuertes? ¡Escalar es mucho trabajo!"

Popoki: "Pero si el río desborda será peligroso".

Abuela Koala: "Pero, ¿qué haremos si la lluvia provoca un derrumbe?"

Popoki: "Este refugio está bien. Además, tiene un puesto de primeros auxilios.

Abuela Koala: "Espero que tengas razón ..."

Popoki: "En realidad, espero que entre los productos de socorro haya algo delicioso para comer."

Abuela Koala: "¡Popoki, esto no es un picnic!"

◆ フランス語版： Loïc, French version:

Popoki couru en se dirigeant vers le refuge au le sommet de la montagne. Grand-mère Koala marchait rapidement.

Grand-mère Koala : « Je suis fatigué ! Pourquoi devons-nous aller dans les hauteurs pour de simples pluies ? C'est épuisant de grimper ! »

Popoki : « Mais c'est dangereux si la rivière déborde. »

Grand-mère Koala : « Mais que ferons nous si la pluie cause un glissement de terrain ? »

Popoki : « Le refuge est sûr. Par ailleurs, il y a une station de premiers secours. »

Grand-mère Koala : « J'espère que tu as raison... »

Popoki : « En réalité, j'espère qu'il y aura quelque chose de délicieux à manger dans les produits de première nécessité. »

Grand-mère Koala : « Popoki, ce n'est pas un pique-nique ! »

◆ Loïc さんは、新しいお話しも送ってくれました。フランス語版：

Grand-mère Koala: « Bien joué Popoki ! Nous sommes au refuge. »

Popoki : « J'entends quelqu'un pleurer... Est-ce un enfant ? »

Grand-mère Koala : « Oui, il est à centre de premiers soins. Il a l'air d'avoir peur. »

Popoki : « Est-il blessé ? Peut-être que je pourrais lui donner mon ours en peluche ! »

Grand-mère Koala : « C'est très gentil mais ses parents sont présents. »

Popoki : « J'aimerais l'aider... »

Grand-mère Koala : « Nous allons rester un long moment dans ces hauteurs. Peut-être que tu pourras jouer avec lui plus tard. »

Popoki : « Vraiment ?! »

Grand-mère Koala : « Bien sûr. Mais maintenant, nous devons trouver quelques produits de première nécessité. Allons-y Popoki ! ».

◆ その日本語訳:

コアラばあちゃん: 「よく頑張った、ポーポキ！避難所にたどり着いたね。」

ポーポキ: 「だれかが泣いている…。子どもかしら？」

コアラばあちゃん: 「はい、救護所にいるね。怖がっているみたい。」

ポーポキ: 「けがしているの？ テディベアをあげよう！」

コアラばあちゃん: 「それはとても親切ですが、ご両親は一緒にいるからね。」

ポーポキ: 「手伝ってあげたい…」 "I would like to help him..."

コアラばあちゃん: 「この高台に長いこといるので、またあとで一緒に遊んであげることができるかも。」

ポーポキ: 「本当に?!」 "Really?!"

コアラばあちゃん: 「もちろん。でも今は、救援物資を探さなければならない。行きましょう、ポーポキ。」

ポーポキの8月のお話しは、9月号のポーポキ通信に掲載します。

8月の単語は、以下のとおりです。

8/7：炊き出し（たきだし）

ポーポキは阪神大震災（はんしんだいしんさい）のとき、外（そと）で被災者（ひさいしゃ）のために料理（りょうり）をつくる「炊き出し」（たきだし）にボランティアとして参加（さんか）して、一番（いちばん）おいしかったのはインド人コミュニティがつくったインド料理（りょうり）でした。



Loïc, フランス語：“repas aux rescapés” (残念ながら、これと同じ意味のフランス語の単語はない)

"Après le grand tremblement de terre de Hanshin-Awaji, Popoki a offert de nombreux repas aux rescapés en aidant à cuisiner à l'extérieur pour les personnes évacuées. Toutefois, la meilleure nourriture était la nourriture indienne, faite par des gens de la communauté indienne de Kobe."

8/14：仮設（かせつ）トイレ

日本（にほん）の避難所（ひなんしょ）にならぶ仮設（かせつ）トイレは和式（わしき）トイレなので、しゃがんだりすることがむずかしい人（ひと）やポーポキのようなねこや慣れていない（なれていない）人（ひと）や子ども（こども）などは大変（たいへん）！

- ◆ Siwinyan; インドネシア語: Toilet sementara yang berjajar di pusat evakuasi di Jepang adalah toilet jongkok model Jepang, sehingga orang-orang yang kesulitan untuk jongkok seperti Popoki, anak-anak dan orang-orang yang tidak terbiasa menggunakannya merasa kesulitan! (Bahasa Indonesia)
- ◆ Loïc, フランス語: "Toilettes temporaires"

"Les toilettes temporaires installés dans les centres d'évacuation au Japon sont tous de styles japonais. Ainsi, ceux qui ont du mal à s'accroupir, les chats comme Popoki, les enfants et les autres qui n'ont pas l'habitude de les utiliser, passent un mauvais moment !"



8/21：ボランティアバス

東日本大震災（ひがしにほんだいしんさい）のあと、ポーポキはボランティアの仲間（なかま）と一緒に（いっしょ）に、あるボランティア団体（だんたい）が借り上げた（かりあげた）バスに17時間（じかん）乗って（のって）、被災地（ひさいち）へ行きました（いきました）。

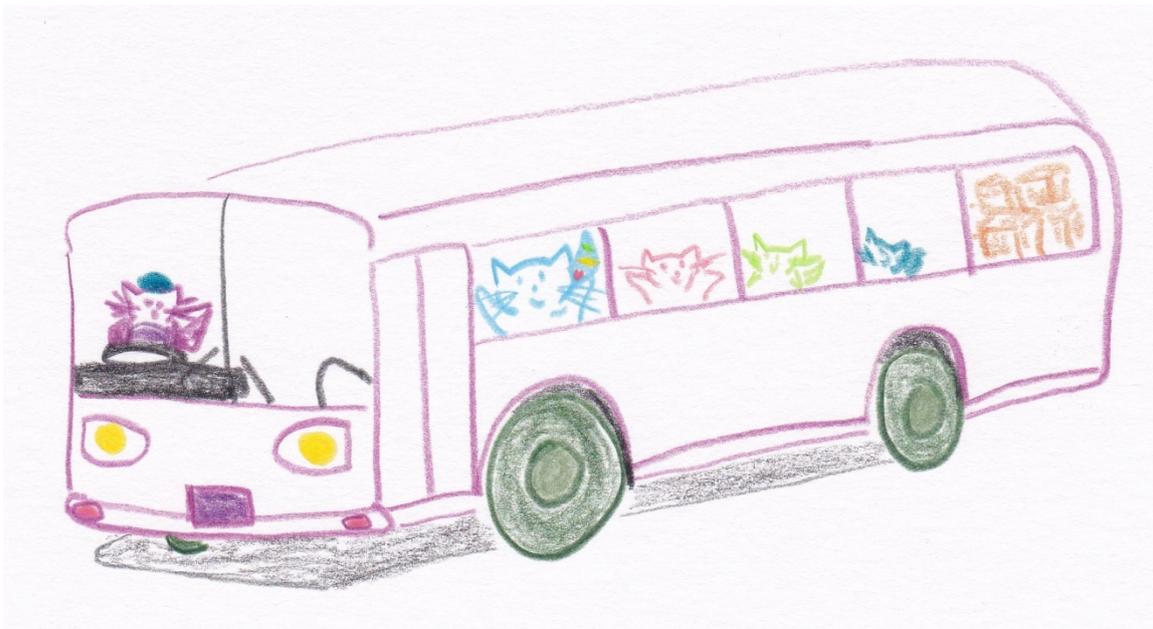


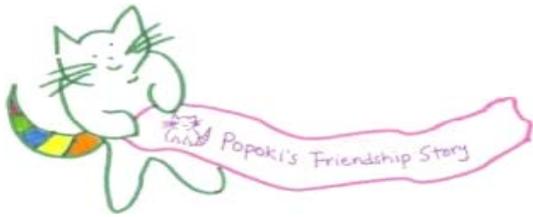
Siwinyan, インドネシア語: Bis Relawan

Setelah gempa bumi Jepang Timur, Popoki dan teman-temannya naik bus yang disewa organisasi relawan dan berkendara selama 17 jam untuk mencapai daerah bencana

Loïc, フランス語: "Un bus bénévole"

"Après le grand tremblement de terre à l'Est du Japon, Popoki et ses amis ont pris un bus loué par une organisation bénévole, et ils ont roulé durant 17 heures pour atteindre la zone touchée par la catastrophe."





Popoki's Interview

まこにゃん

前回のポーポキ通信で紹介されていた灘チャレンジの SHAKE HAND プロジェクト。今回は、その活動をされている岩手県大槌町の川原畑洋子さんへのインタビューです。岩手県大槌町は東日本大震災で大きな被害を受けた街のひとつです。そんな大槌町で、おばちゃんたちと始めたのが「おおつち おばちゃんくらぶ」。おばちゃんたちの中には被災している方や一人で生活している方が多く、半分くらいは旦那さんを亡くされた未亡人だそうです。この「おおつち おばちゃんくらぶ」では先月紹介した SHAKE(シャケ)をはじめとし、さまざまな手芸品をつくっています。コースター、ふきん、手ぬぐい、バッジ、マスキングテープなどなど。これらのおばちゃんたちが作った手芸品はイベントやホームページにて販売しています。商品やおばちゃんたちの活動の様子が見ることができるので、ぜひ、ホームページをご覧ください！

被災直後、洋子さんは隣町の青少年センターで働いていましたが、瓦礫の街(大槌町)を越えて行くたびに思うことがあり、「ハリと糸があればなにか作れる！」とこの活動を開始されたそうです。被災した大槌という街の中で、この「おおつち おばちゃんくらぶ」は一人で暮らしていたり、被災したおばちゃんたちが集い、ハリと糸を持ちながらおしゃべりをする場所になっています。

SHAKE HAND プロジェクトは無地のシャケを買い、好きなようにデコレーションをします。そのシャケに値段とメッセージをつけて大槌町にかえます。そのシャケを販売し、売上が支援になるという仕組みです。この思いに賛同する学校や企業とのコラボもあるみたいです！

大槌町はサケの街。

サケはいつでも、自分の故郷に帰る。

サケの SHAKE HAND に込められた想いを、洋子さんから感じることができました。

デコレーションされたシャケが、色んな人の色んな想いと共に大槌町に帰り、またそのシャケが誰かのもとに想いを運んでくれる、とても素敵でユニークなプロジェクトです。

インタビューをしてみて

大槌町にどんな地震の被害があったのか、私はポーポキの活動で初めて知りました。そして今回、実際に大槌町で活動をされている洋子さんのお話を聞くことでより、大槌町に行ってみたくてという気持ちが強くなりました。今月の「平和の一言」でも紹介させて頂きましたが、洋子さんの「みんながつながっていくこと。笑顔でいること」という言葉が印象的でした。人と人がつながり、笑顔でいられる場所をつくるということの大切さを、地震を経験し「お

おつち おばちゃんくらぶ」を通して示されている洋子さんから学んだ気がします。
洋子さん、インタビューに応じて下さってありがとうございました！



(左：川原畑洋子さん 右：インタビュアー 安藤真子)



神戸市灘区の都賀川で起きた水難事故からちょうど9年。突然の大雨とてつぽみずで川があふれ、子どもも大人も流されました。そして、犠牲者の中に5人の子どもがいました。7月28日を子どもの命を守る日という団体が開催する忍ぶ会にポーポキの友だちの洋子さんとおおつちおばちゃんくらぶのおばちゃんたちが思いと吊り飾りを送っていただきました。本当にありがとう！！



ポーポキちゃんの簡単ポガ教室

Lesson 111

今月のテーマは、簡単なストレッチ！



1. まず、いつものように、美しく座りましょう。
2. では、あぐらをかくなど、楽に座りましょう。肩を耳まであげて、ドンと落とす。今度は腰をまげないでできるだけ肩を下げましょう！数回繰り返してね。
3. 次は、手を頭の上であわせましょう。ゆっくり手をひじからおろし、わき腹にくっつけてから、ゆっくりもとにもどしましょう。ゆっくり、好きな回数だけ繰り返してね。
4. 最後に首をのばしましょう！耳をゆっくりと肩までのばしてみましょう。肩をおげないでゆっくりやってみてくださいね。今度は反対方向へ。気持ちがよければ右左を繰り返しやってね。
5. できてもできなくてもがんばりましたね。では、「できたポーズ」をどうぞ！お疲れ様でした。少しリラックスできましたか？毎日、深呼吸・笑・リラックス、そしてポガを最低3分間練習しましょうね。

ご一緒にいかが？



次回のポー会：9月22日 19:00～ 灘薬剤師会

- 8.23 ポーポキ@神戸大学男女共同参画推進室の小学生サマースクール！ろにゃんとさとにゃんコンビでろにゃんの平和、さとにゃんの健康！対象は神戸大学教職員、学生のこどもさん。良かったら申し込んでくださいね。
- 9.10～9.14 ポーポキは、友だちと一緒にグアムへ！
- 9.26 ポーポキ@アフリカからのJICA研修生のための防災セミナー！
- 10.28 「平和と健康ワークショップ」@兵庫医療大学

ポーポキの友だちから

新しい絵本：中條聖子著、ロニー・アレキサンダー訳『森のかんづめ』（日英版）エピック 2017年

Popoki in Print

ポーポキ通信のバックナンバー : <http://popoki.cruisejapan.com/archives.html>

- 「ポーポキのミニ平和映画祭」 「こくしのまど 52」 『神戸青年・Kobe YMCA News』No.652 2017.7-8
- ESD Digital Archives, Kansai Council of Organizations for International Exchange <http://www.interpeople.or.jp>
- 関西国際交流団体協議会の「デジタルアーカイブ(WEB版の事例集)にポーポキ! <http://www.interpeople.or.jp>
- 『平和を考える絵本出版 被災者支援きっかけに』 『神戸新聞』 (貝原加奈 2014.4.25 28面)
- 「ボランティア 37 団体に助成 大和証券福祉財団」 『神戸新聞』 (2013.8.23 朝刊 地域経済 8面)
- 「原爆の熱線で焼き付いたー “人影”再現、非核誓う」 『神戸新聞』 (2013.8.7 朝刊 22面)
- 「被災 秘めた思い描いて」「ひとと抄」 『読売新聞』 (2013.2.16 夕刊 4面)
- 広岩近広 『安全』『安心』の社会は足元から」、ロニー・アレキサンダーインタビュー 『毎日新聞』 2012.10.29 (「今、平和を語る」、夕刊、1面)
- R. Alexander. “Remembering Hiroshima: Bio-Politics, Popoki and Sensual Expressions of War.” *International Feminist Journal of Politics*. Vol.14:2:202-222, June 2012
- 「ポーポキと一緒に作り出す平和の根底に 9 条がある」NO : 66 2012 年 5 月 12 日 [子どもと守る9条の会]
- 「布に希望 60メートル」 阿久沢悦子 『朝日新聞』 2012.1.21 (兵庫・29面)
- 「平和祈る声まとめ本に」 斎藤雅志 『神戸新聞』 2012.1.19 (伝える 1・17 3・11、22面)
- K. Wada. “Conversations with Ronni Alexander: The Popoki Peace Project; Popoki, What Color is Peae? Popoki, What Color is Friendship?” *International Feminist Journal of Politics* Vol.13, No.2, 2011, 257-263
- S. McLaren. “The Art of Healing” (Popoki Friendship Story Project) *Kansai Scene*. Issue 133, June 2011, p.10. kansaiscene.com
- R. Alexander. (2010) “The Popoki Peace Project: Creating New Spaces for Peace in Demenchonok, E., ed. *Philosophy after Hiroshima*. Cambridge Scholars Publishing, pp.399-418
- 「省窓」 『神戸青年』 No.606 2011.1.2 p.1
- No.1 「『ポーポキ、平和って、なにに色?』の背後にあるもの」 (連載) とさぼりライフ第 19 号 2010.10:4
- 堀越健志「シリーズ:こくさいのまど⑮(パレスチナについて) 『神戸青年』 No.604 2010.9-10
- 「みんなでやれば、何にかが変わる！」 THE YMCA No.607 June 2010, p.1
- [ヒロシマと世界: 被爆地の声 非核と平和、復興と再生、許しと命の尊厳訴え] http://www.hiroshimapeacemedia.jp/mediacenter/article.php?story=20100312140608602_ja
- 2010.3.15 中国新聞 ヒロシマ平和メディアセンター
- FM COCOLO 76.5 ‘Heart Lines’ 2010.1.9 Interview: Ronni on Popoki in Palestine
- “Human Rights, Popoki and Bare Life.” *In Factis Pax Journal of Peace Education and Social Justice* Vol.3, No.1, 2009, pp.46-63 (<http://www.infactispax.org/journal/>)
- 西出郁代 「ポーポキ、平和って、なにに色? ロニー・アレキサンダーを迎えて」 『PPSEAWA』(日本汎太平洋東南アジア婦人協会) No.63 2009.12, p.5.
- 「友情」第 2 号 2009.11 伊丹市国際・平和交流協会 年間事業報告 pp.1-2
- 「ともに・・・」 No.29 2010.1 家庭と保育所、学校園、地域を結ぶ在日外国人教育情報誌 ポーポキ・ピース・チャンレジ情報 p.12
- 区民情報誌「なだ」 2009.12, p.2. ポーポキ・ピース・チャンレジ情報。
- 「『ポーポキ、友情って、なにに色?』」「私のいち押し」 奥田光子 THE GAIDAI 2009.7.17 No.243 (関西外大通信)
- 「友情って・・・考える絵本」 朝日新聞 「生活」(阿久沢悦子) 2009.7.2
- 「友情を考えて人間と、ねこと、そして自分と～」 れ組通信 RST/ALN 2009.6.28 No. 259, p.11
- 「カテイング・エッジ」 第 35 号 2009.6 (北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」) 「新刊紹介:『ポーポキ、友情って、なにに色? ポーポキのピース・ブック 2』(レベッカ・ジェニソン) p.3
- 「猫を通して平和を考える 絵本の第 2 弾を出版」 (斎藤雅志) 神戸新聞 2009.4.21
- 「ポーポキ、平和ってなにに色?」 KOBE YMCA NEWS 「神戸青年」 2009.3.1 No.593 p.2
- 「ポーポキ、ゴミってなにに色?」 KOBE YMCA NEWS 「神戸青年」 2009.1.1 No. 592 p.2
- 「友だちになつてくれませんか?」 RST/ALN 2009.2.22
- ラジオ番組の中のポーポキ!!! プロジェクト・メンバーの宇留賀佳代子さんがラジオ番組で紹介してくださいました。ぜひお聞きくださいね。 <http://www.kizzna.fm/> 録音番組。(リンクは現在無効)
- やさしいから人なんです展パート20 実行委員会 『世界人権宣言』 ひょうご部落解放・人権研究所 2008. 10 500 円。詳しくは: blrhyg@osk3.3web.ne.jp
- 「KFAW カレッジ ロニー・アレキサンダー氏 講演会」 エイジアン・ブリーズ/Asian Breeze No.54 October 2008, p.8 (アジア女性交流・研究フォーラム)
- 「ピースセミナー in 熊本 あなたにとっての「平和」とは?」 Kumamoto YMCA News 10; Vol.437 October 2008, p.1
- 神戸新聞 「人権宣言 兵庫から発信 全 30 条 イラストで表現 地元ゆかり 6 名がパネル制作」 2008.10.8. 10





わたしにとってのポーポキ

まりにゃん

大学院に入学して、半年が経とうとしています。
新しい環境、慣れない課題、アルバイトとの両立…
M1の前期は、しんどい時間が多かったように感じます。
悩みもたくさん増えて、なにやってるんだろう私？と自分を見失うこともありました…



しかし、この4か月間で学んだことはたくさんあります。

M1前期を走り抜けることができたのは、同期の仲間たちがいてくれたからです。

助けてくれる友だちを持つことは、幸せなことだなあと思いました。

わたしにとっての平和は、「お互いを尊重し合う心を持つこと」です。
ポーポキの活動で、みんなの温かい意見や考え方にいつも感動しています。
同時に、「わたしはなんて狭い考えしか持っていないのか」、と悩むこともあります。
そんなとき、いつもポーポキから「もっと柔らかく考えて！」と言われていたような気がします。

わたしはまだまだポーポキの新入生で、足りない部分だらけですが、日々みなさんから学び、刺激を受けながら成長していけたらいいなと思います。
M1後期も一歩ずつ、みんなと力を合わせてがんばりたいなと思います。

さらにご協力ください！



ポーポキ・ピース・プロジェクトは、『ポーポキ、平和って、なに色？ポーポキのピース・ブック1』（エピック、2007年）、『ポーポキ、友情って、なに色？ポーポキのピース・ブック2』（エピック、2009年）、『ポーポキ、元気って、なに色？ポーポキのピース・ブック3』を題材に、全身で平和の意味を探り、一人ひとりの「発見」を平和の創造に役立てようとする小さな平和活動団体です。また、2011年に起こった東日本大震災をきっかけに活動しており、『ポーポキ友情物語 東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅』という本を2012年1月に発行しました。2006年に設立されて以来、日本国内外で幅広く平和のためのワークショップなどの開催を続けてきました。活動の資金はすべて本の売上や寄付によって行っています。

これからも平和を考えるためのピース・ワークショップ、読み聞かせ、ピースキャンプ参加、ポーポキのピース・ブックの翻訳（『ピース・ブック1』は既に10カ国語に翻訳されている）、『ポーポキのピース・ブック3』の執筆などの活動を中心に活動を続ける予定です。定期例会「ポー会」を月に一度のペースで開催しています。一緒に活動なさいたい方はぜひご参加ください。（ポー会の開催については、ポーポキ通信の「ご一緒にどうぞ」の欄をご参照されたい。）

また、こういった活動に対してのご協力、ご支援をぜひお願いしたいと存じます。本の購入・寄付・本についてのコメント、感想、注文などについては、popokipeace@gmail.com へお問い合わせください。

なお、本についての問い合わせや注文は、お近くの書店、アマゾン、あるいはエピック（TEL: 078-241-7561・FAX: 078-241-1918）へどうぞ。

ポーポキ・ピース・プロジェクト [popokipeace\(at\)gmail.com](mailto:popokipeace(at)gmail.com)



<http://popoki.cruisejapan.com>

郵便振替口座番号 00920-4-280350

ゆうちょ銀行 店番099 店名099店 当座 口座番号0280350

口座名 ポーポキ・ピース・プロジェクト神戸

ポーポキ平和募金は一口 1500 円 何口でも結構です。



THANK YOU FROM POPOKI!